

第1回総合戦略推進アドバイザー懇談会議事録

日時		令和6年7月8日(月) 14時00分～15時15分
場所		美濃加茂市役所本庁舎3階 第1議会委員会室
委員	出席者	【産】(株)フジイ 代表取締役 金森 薫氏 【官】岐阜県男女共同参画・女性の活躍支援センター センター長 成瀬 幸子氏 【学】中部学院大学短期大学部幼児教育学科 教授 杉山 祐子氏 【金】東濃信用金庫美濃加茂支店 支店長 佐藤 幸一氏 【労】ハローワーク美濃加茂 所長 坂井 能子氏 【言】みのかもフリーペーパー歩好里人 代表 安藤 摩里氏
事務局		経営企画部 企画課

1 開会

2 あいさつ

3 第2期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプランの進捗状況・実績について【事務局】

・総合戦略アクションプランの進捗状況と令和5年度の実績について説明を行った。

<カミーノアクションプランの進捗状況について>

施策	事業数(KPI 数)	KPI達成	KPI未達成	未実施
ライフスタイル 「自分らしく生きられる」	10	5	5	0
出会い・結婚 「家族をつくれる」	2(3)	1	2	0
妊娠・出産 「お母さんになれる」	4	0	4	0
子育て 「子どもの笑顔を守れる」	13(15)	9	6	0
教育 「ふるさとを好きになれる」	13(14)	8	6	0
合計	42(46)	23	23	0

・KPI目標値の達成率は50.0%、未達成率は50.0%となり、昨年度と比較して、KPI 目標値の達成率が上昇した(昨年度は達成率40.0%、未達成率60.0%)。

<ステージごとのKPI実績>

ステージ 【目標値】	KPI	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度 (前年比)
ライフスタイル 【75%】	充実したライフスタイルを送る女性の割合を63.6%から75%に増やします	63.3%	63.7%	54.9%	61.7% (+6.8pt)
出会い・結婚 【600件】	婚姻件数(年あたり600件)を維持します	482件	524件	531件	507件 (-24)
妊娠・出産 【500人】	生まれる赤ちゃんの数(年あたり500人)を維持します	470人	450人	407人	421人 (+14)
子育て 【1.75人】	子どもを持つ世帯の平均子ども数1.75人を維持します	1.75人	1.75人	1.75人	1.75人 (±0)
教育 【40%】	女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合を20%から40%に増やします	8.9%	8.9%	12.5%	12.0% (-0.5)

・ライフスタイルの項目では、戦略の開始時期と変わらない数字を維持している。目標値には至っていないが、今の暮らしにおおむね満足していると評価していただいているものだと考える。出会い・結婚、妊娠・出産では、新型コロナウイルス感染症流行の影響もあり目標値には至っていないが、件数及び人数が減り続けるのではなく、一定のところで数値は維持している。今後数値が上昇することを期待したい。子育ての項目は目標値を達成しているため維持していきたい。教育の項目では、全体としての数値は目標値に至っていないが、令和4年度の市民満足度調査において、20代、30代女性から実績値以上の割合で評価いただいている。全世帯に評価していただけるよう取り組んでいくもの。

4 地方創生推進交付金事業の評価について

【事務局】

・令和5年度対象事業であった「ヘルステック健康のまちづくり事業」と「古民家を活用したシェア工房等整備事業」の評価について説明を行った。

<ヘルステック健康のまちづくり事業:担当部署所感>

・市民一人ひとりが自らの健康について考え、生活の中に健康づくりを積極的に取り入れてもらえるよう「みのかも健康10か条」を策定したことで、今後の事業の取組を市民に伝えやすくなった。また、ヘルステックセンターを開設したことにより、健康に関する情報を市民への発信の場として活用できることや、自身の健康状態が数値として見える化されることで、健康意識の向上に繋げることが可能となった。

さらには、「クアオルト健康ウォーキング」を導入したことで、次年度から市民へ健康プログラムの一つとして提供が可能となった。

<古民家を活用したシェア工房等整備事業:担当部署所感>

・主屋の改修工事を行い、期間中は施設内に立ち入りができなかったため、施設で生産した地域資源

を活用した商品生産額、施設来場者数は目標値を大幅に下回っている。しかし、里山整備講座の開催や蔵の木工シェア工房の利用により、里山整備団体は1団体増加、活用された地域資源(木材)量は1.047 m³増加している。

令和6年度からは、木工シェア工房のほか、主屋はショップ、ギャラリー、シェアスペースとして本格稼働していくほか、定期的にワークショップ等も行っていく。

5 地方自治体「持続可能性」分析レポートについて

・昨年12月に民間の有識者グループ「人口戦略会議」が「国立社会保障・人口問題研究所」の推計をもとに分析した「地域別将来推計人口」において、本市は「A:自立持続可能性」という評価を受けた。どうしてそのような評価となったか、他の A 評価を受けた自治体の特徴を分析しながら、推察ではあるが独自の分析を行った。

6 意見交換会

【アドバイザーからの意見】

- ・若い女性世代が市外に流出してしまうと、出会いのきっかけも少なくなることから、男性も市内女性と結婚することが難しくなる。
- ・市外流出を防ぐためにも、市内で雇用できる体制を整える必要がある。そのために、企業は様々な努力を行っているが中々思うような人材確保ができていない。
- ・市内企業の戦略で、スポーツ支援に力を入れており、バスケットチームのスポンサーになることで、20代の選手を社員として確保することができた。自治体がスポンサーとなっているケースもあると聞いているため、本市もそういった面から雇用促進できると良い。
- ・厚生労働大臣認定の優良企業(安全衛生優良企業公表制度)になるなど、企業価値を高めると良い。また、そういった企業が外部に発信できる場やツールが必要である。
- ・若者世代(小・中・高)が地元企業に就職するように、市の魅力を上げる。美濃太田駅南のにぎわいを取り戻すなど。
- ・本市の魅力を外部に発信する際は見せ方が大事である。
- ・本市は転出数より転入数が多い結果となっているが、近隣町村の人口が流れてきているということでもある。よく言えば圏域のダム機能を果たしているし、悪く言えば人口を吸収しているということになる。
- ・他自治体では、就職支援金等を準備することで、大学等で一旦外に出て行ってしまうと、また戻ってくるよう促す様々な支援を行っている。
- ・県が行っている「奨学金返還支援制度」のように、本市でも本市で就職したら何か支援を受けることができる制度があるとよい。

<懇談会で質問があった事項に対する回答>

Q、マッチングアプリの実績は？

A、①「web セミナー」(R5.11.30、R5.12.2 の2回実施)計9名にマッチングアプリギフトコードプレゼント。

②「真剣な婚活を後押しする企画」(独身証明書の提示でマッチングアプリギフトコードプレゼント R5.12.1～R6.3.29 実施)計4名にギフトコードプレゼント。

※市はマッチングアプリを約1ヵ月間無料で使用できるギフトコードをプレゼンしています。実際に

マッチングした件数までは把握していません。実績：13 名にギフトコードをプレゼント。

Q、IBUCAL の来場者数と内訳(市内・市外)は？

A、来場者数：1,256 名(内訳：市内_640 名、市外_616 名)

※内訳については正確に把握していないため、感覚的な数字になります。

Q、里山整備する団体の内訳(市内・市外)は？

A、すべて市内になります。

7 閉会